



第一次 生活クラブ

2030 行動宣言

Sustainable Report

2020年度実績 報告レポート

「第一次 生活クラブ2030行動宣言」の8つの目標に対し
年度ごとの到達点の確認と報告を目的としたレポートです。

生活クラブはSDGsの理念に通じ、かつ

「第一次 生活クラブ2030行動宣言」は、SDGsの理念に通じ、かつSDGsに留まらない生活クラブの新たな未来の実現をめざしています。本レポートでは、それぞれの目標達成に向けてどんな活動がすすめられ

Contents

- 重要目標1** 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。……4
- 重要目標2** 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして ………………7
健康で豊かな食の実現をはかります。
- 重要目標3** 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候変動対策に取り組みます。 … 9
- 重要目標4** 原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組みます。……11
- 重要目標5** 誰もがその人らしく、安心して生活を営める地域と社会をつくります。 …………12



留まらない活動を実行していくことを約束します。

り組みの中から、さらに推進すべきことをまとめた宣言です。8つの重要目標を掲げ、生活クラブに関わるみんなでサステイナブルしているのか、2020年度の到達点とともにご報告しています。

重要目標6 貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくります。 13

重要目標7 非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。 14

重要目標8 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。 15

DATA 数字でみる動向と推移 16

MESSAGE SDGsでめざす世界のさらにその先へ 18

【掲載内容について】
本レポートに掲載している活動やデータは、2020年度（2020年4月～2021年3月）の実績に基づき作成しています。
それ以外の情報に関しては、それぞれの項目内に記載しています。

重要目標5



重要目標7



重要目標8



重要目標6



2022年6月
第二次行動宣言へ

気候危機や脱プラ対策、食品ロスの削減、多様な働き方の実現など、新たに取り組むべき課題について目標を策定中です。

詳しくは18ページへ



食料主権の考え方を基軸とした、 国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

持続可能な地域づくりとともに進める

生産者とともに国内自給力アップをめざす

家庭で消費する基本の食材であり、さまざまな加工品の原料にもなる一次產品^{*1}をつくり、食べ続けていけるように、提携生産者とともに国内自給力のアップをめざしています。「共同開発米^{*2}」をつくる山形、長野、栃木、宮城の4つの主産地を中心に各産地と地域まるごとのつながりを持ち、地域の活性化など食をこえたチャレンジもしています。

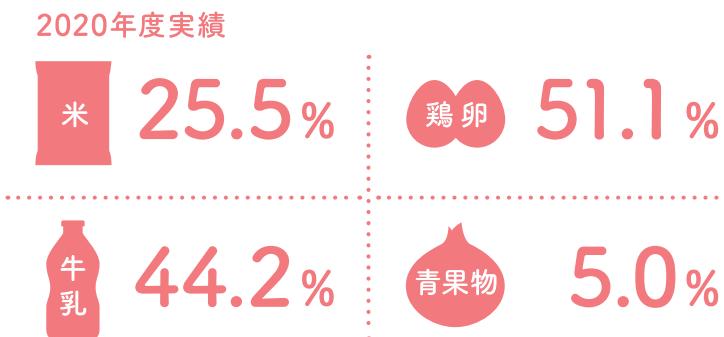
2020年度実績



予約で支えるサステイナブルな生産と消費

生活クラブの注文方法の一つに、組合員が予約した消費材^{*3}を定期的に届けられる「よやくらぶ」があります。毎週の注文をサポートする便利なしくみです。米、牛乳、鶏卵、青果物の予約ができる「ビジョンフード^{*4}よやくらぶ」は、予約することで組合員の継続的な利用が見込め、生産者が生産計画を立てやすくなることから、持続的な生産と消費を支える力になっています。

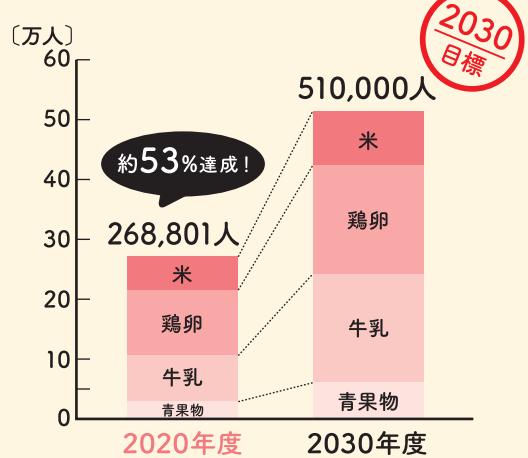
■ ビジョンフードよやくらぶの予約率*



※予約できる消費材は地域によって異なります。青果物の予約は2020年度から、7地域でスタートしました。

2020年度の実績と2030年目標

■ お米・鶏卵・牛乳・青果物を予約している組合員の人数



[内訳]2020年度／米：55,254人、鶏卵：108,609人、牛乳：94,744人、青果物10,194人 2030年度目標／米：90,000人、鶏卵：180,000人、牛乳：180,000人、青果物60,000人

*1 一次產品

青果物やお米、牛乳、鶏卵、肉類など、自然からとったままの状態で、加工されていないものなどをいいます。

*2 共同開発米

生活クラブのお米は、組合員と生産者が品種や農法を話し合い「共同開発」しています。組合員が食べたい、生産者がつくりたいお米のサステイナブルな生産が目標です。



命の産業である第一次産業において、種に至るまでの国内自給を追求し、生産情報の開示をすすめます。また、国内外を問わず、生産に従事する人々の人権に配慮し、合意に基づく調達を行ないます。



互いを理解する機会をつくり提携関係を深める

組合員と提携生産者が互いの声を聞き、現場を知ることを目的に、オンラインも活用しながらさまざまな交流の機会をつくっています。組合員が産地を訪れ消費材の生産について学ぶ「生産者交流会」をはじめ、生産者を各地の生活クラブに迎える「消費地交流会」や「学習会」も開催。加工用トマトの定植や収穫にも組合員が参加しています。

2020年度の実績と2030年目標

■生産者との交流会や産地見学会などの参加人数

2020年度 **5,269人**[※]
2030目標 **400,000人**

約1%達成!

※新型コロナウイルス感染拡大の影響から、2020年度に開催が予定されていた交流会や産地見学会のほとんどが延期となりました。2019年度は185,415人の参加実績があります。



毎年開催している、各地の組合員が山形県庄内地方を訪れる一大交流会。数日間をかけて米や青果、加工品などの生産者と交流します



生産者が組合員のもとを訪れ、学習会や料理講習会などを開催。消費者の声を直に聞き、消費材にいかす機会になっています



トマトジュースの原料に使用される、加工用トマトの定植と収穫に組合員も参加。収穫期を迎える毎年8月に行なわれています



消費材の産地に組合員が出向き、消費材がつくられる様子を見て学びます。食べ物だけでなく、電力の産地でも開催しています



消費材についての理解や知識を深め、生活クラブのさまざまな取り組みを知る学習会を、各地の生活クラブで定期的に開いています

海外の生産者とのつながり

国内で生産が困難な食品は、海外から輸入しています。海外产品であっても、消費材としての基準は国産のものと同じです。海を越えて顔の見える関係を築き、組合員と生産者が互いに豊かになる提携をめざしています。



「ファーマーズ・シュリンプ」の生産者を組合員が訪問しました



畜産物の飼料となるNom-GMトウモロコシの視察に、組合員が訪されました



5つの地域でつくられている「バランゴンバナナ」が、約30年にわたり組合員に届けられています

*3 消費材

生活クラブでは、取り扱う食品や生活用品を利潤追求が目的の「商品」ではなく、使う人の立場にたった材であるという思いを込めて「消費材」と呼んでいます。

*4 ビジョンフード

毎日の基本の食である牛乳、鶏卵、米、肉類などの一次産品を手に入れ続けるには、生産から流通・消費にいたるまで「ビジョン（展望）」を持つことが必要です。生活クラブではこれらの品目を「ビジョンフード」と呼び、共同購入を通じて生産者との提携関係を強め、未来の食の安心の実現をめざしています。

重要目標

1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

国内自給と消費材の種からの生産・出荷・廃棄までを追求

国内で自給できる種の維持と開発

鶏肉・鶏卵の「国産鶏種」の生産と拡大に取り組み、輸入に頼らない種の自給にチャレンジしています。国内で食べられている鶏や卵を産む鶏のほとんどは、三世代前にさかのばると外国からひなを輸入して育てたもの。国内で種の自給が可能になると、日本の気候風土にあった形質や国内の嗜好にあったものに育種改良しやすくなります。



2020年度の実績と2030年目標

■国内で育種し、改良した「国産鶏種」の飼育数



畜産にあたえる飼料も国産に

国内で飼育されている豚や鶏、牛などにあたえる飼料の7割以上は、輸入に頼っているのが現状です。生活クラブでは飼料から国産をめざし、飼料用米をあたえるチャレンジや飼料用作物の栽培にも取り組んでいます。

2020年度

23.3% → **35%**
2030目標

生産から消費に至るまでの全情報を開示

取り扱っている農産物や畜産物について、「いつ・誰が・どこで・どのようにつくって運んだか」を確認できるように、すべての情報を組合員に開示しています。また、水産物を使った消費材の一部に、「MSC認証^{*5}」の輸入原料を使用。認証のついた水産物を使うことで、水産資源と環境の両方を守っています。

■農産物や畜産物の生産計画・生産履歴の開示



■MSC認証の原料を使用した消費材の注文数量



*5 MSC認証

天然の水産物を対象とし、海洋管理協議会（Marine Stewardship Council）が管理している、水産資源と環境に配慮し、適切に管理された漁業で獲られた水産物の証。認証のついた水産物の使用が、海と魚を守ることにつながります。

重要目標

2

素材本来の味、食材にまつわる 知恵や文化を大切にして、健康で 豊かな食の実現をはかります。



添加物や薬剤の使用をできるだけ削減し、健康を保つことに貢献する食材の使い方や摂り方などの情報を積極的に共有します。

化学合成農薬や抗生物質などの使用を削減

農薬をできる限り減らした 野菜の取り組み

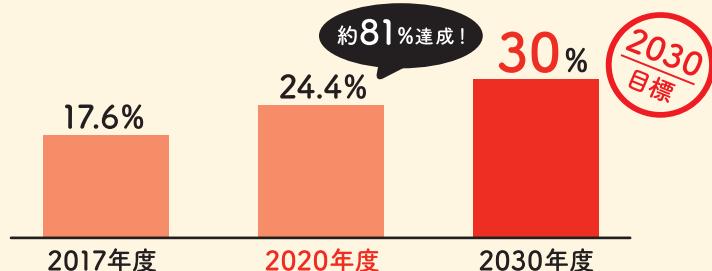
生活クラブの野菜はすべて、「アースメイド野菜」と名付けています。化学合成農薬や化学肥料はできるだけ使わず、生産者と一緒に土づくりからはじめ、「いつ・誰が・どこでどのように作ったか」栽培履歴をすべて明らかにすることを基本としています。そのなかでも「あっぱれ育ち」、「はればれ育ち」の野菜は、独自の基準のもと徹底した品質管理で届けています。



アースメイド野菜の
ロゴマーク

2020年度の実績と2030年目標

■「あっぱれ育ち」「はればれ育ち」野菜の供給比率の推移(3カ年)



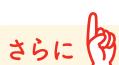
あっぱれ育ち

栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料を使用しないで育てました。



はればれ育ち

栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料をできるだけ使わず育てました。



薬に頼らず健康第一に 畜産物を育成

生活クラブが提携する畜生産者は、牛や豚、鶏がのびのびとストレスなく過ごせる環境を整え、健康第一に育っています。そうすることで家畜が病気になりにくくなり、抗生物質に頼らない飼育が実現できています（病気の治療をのぞく）。



牛

(9農場)



豚

(46農場)



鶏

(30農場)

3,792頭

10.9万頭

240.7万羽



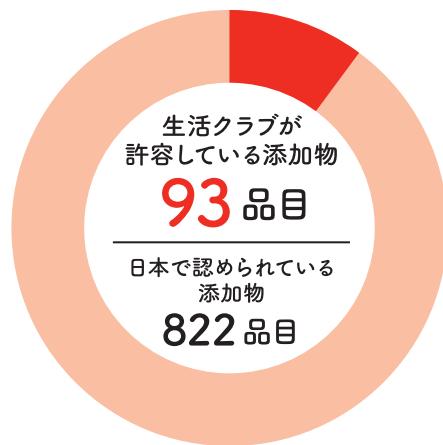
素材の良さを活かし不要な食品添加物を使わない消費材づくり

必要のない食品添加物は不使用に

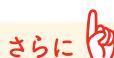
食品添加物に対する基本的な考え方は、「疑わしいものは使用しない」「不要なものは使用しない」「使用したものはすべて公開する」です。現在、日本で使用が認められている食品添加物は822品目。生活クラブではその約1/10のみを許容し、使用する用途も限定しています。



許容食品添加物



※日本で使用が認められている食品添加物には、「指定添加物」「既存添加物」「天然香料」「一般飲食物添加物」があります。右記の822品目と93品目（原材料のキャリーオーバー及び粉ミルクの栄養素は除く）は、「指定添加物」「既存添加物」のことを指します。



組合員の健康でいきいきとした暮らしを、食品と講座でサポート

ミールキットや誰もが食べやすい食品の開発

安全性に配慮した食品を使い、栄養バランスのとれた食べ方を組合員に提案しています。また、食材が持つ栄養を活かした消費材や、伝統的な製法や調理方法でつくった消費材の開発もすすめています。

ビオサポ^{*6} 食材セット

消費材や国産野菜、提携生産者の調味料を使った、生活クラブのミールキット。



美食百彩

ライフステージの変化に対応し、あらゆる世代の健康をサポートする消費材シリーズ。



2020年度の実績と2030年目標



健康づくりに役立つ食の情報を発信

ビオサポ活動を組合員が理解し日々に役立てるために、各地域で学習会を開催。献立づくりの知識を伝える講座や、子育て支援講座、シニアの健康維持について伝える講座などもあります。



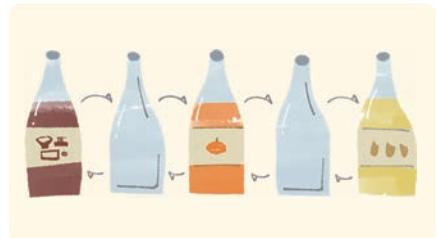
2020年度の実績と2030年目標



※新型コロナウイルス感染拡大の影響から、2020年度はオンラインも活用して講座を開催しました。2019年度には講座を60回開催し、905人が参加しています。

3

地球の生態系を維持するため、 海や陸の環境保全と 気候変動対策に取り組みます。



生物多様性をおびやかす遺伝子操作を行なった食物を扱わないことを基本とし、その生産に反対します。また、生産・流通・消費・廃棄の各段階での環境配慮とともに重点的に温室効果ガスの削減に取り組みます。

容器包装ごみを減らし資源を循環できる社会をつくる

グリーンシステムでびん容器をリユース

家庭から出るごみの約60%が、容器や包材だといわれています。生活クラブでは、なるべくごみを出さず環境負荷を減らすために、調味料やジュースなどの容器を数種類のR(リユース)びんに統一し、回収して再使用する「グリーンシステム」を取り組んでいます。



2020年度の実績と2030年目標

■調味料やジュースなどの容器に使われているR(リユース)びんの回収率

2020年度
73.6%
約92%達成!
2030
目標
80%

リユースとリサイクルでごみを出さない暮らしを実現

生活クラブは容器包装ごみを減らすために、1994年から消費材のびん容器の規格を数種類に統一し、回収・再使用(リユース)をはじめました。現在は牛乳キャップや消費材の配達に使うピッキング袋など、プラスチック類の回収・リサイクルまで活動は広がっています。このリユースとリサイクルのしくみを、Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity(地球生態系のためのごみ減量)の頭文字GREENから「グリーンシステム」と呼んでいます。

2018年には、20年以上にわたる活動と実績が評価され、「第6回 環境省グッドライフアワード環境大臣賞(NPO・任意団体部門)」を受賞。組合員が続けてきた活動が、社会的な評価を受けました。



⑥びんと牛乳びんは洗ってリユース

調味料やジュースなどのRびん



牛乳びん



牛乳キャップとピッキング袋はリサイクル

牛乳キャップ



ピッキング袋



生活クラブグループのCO₂排出量を削減

CO₂排出を2050年までに限りなくゼロに

地球を過熱化する温室効果ガス(CO₂/二酸化炭素)の排出を、消費材の生産から流通、消費、廃棄に至るまでのすべての過程で減らすため、生活クラブグループ全体で削減に取り組んでいます。2030年までに40%削減(2013年比)、2050年には限りなくゼロにすることをめざしています。

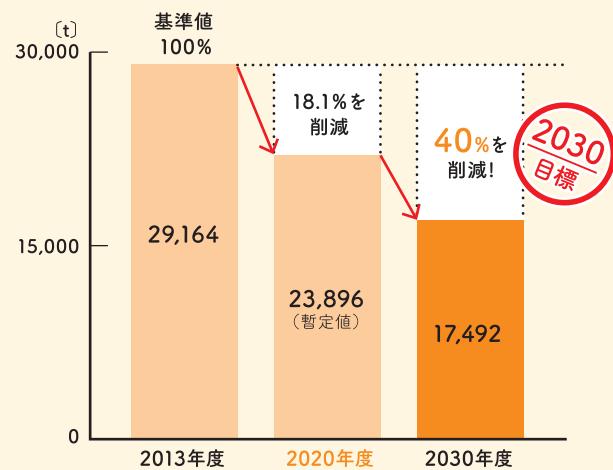
■2020年度 生活クラブグループのCO₂削減量



※2013年を基準として、2020年のCO₂削減量を容積で表すと東京ドーム2.2個分

2020年度の実績と2030年目標

■生活クラブグループCO₂排出量の基準年に対して削減できた割合



生活クラブグループの各施設の目標の積み上げで、CO₂排出量40%削減をめざします。

日々の暮らしの選択で環境や生態系を守る

合成洗剤は扱いません

せっけんの利用をすすめ、石油や油脂などを原料にした合成界面活性剤でつくられる合成洗剤は扱いません。家庭から排出される有害化学物質の60%以上は、合成洗剤の成分。天然の油脂とアルカリが原料のせっけんは、排出後に洗浄力も毒性もなくなり、環境に悪影響をあたえないのが特徴です。



■合成界面活性剤の推定削減量



組合員が家庭内で1年間に使ったせっけん(洗濯用・キッチン用)の量から、一般的な合成洗剤を使っていたら排出されていたはずの合成界面活性剤の量を推定しています。

遺伝子操作を行なった食物は扱いません

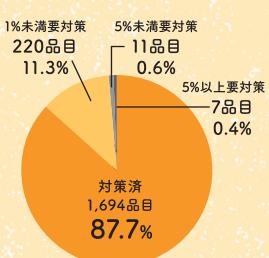
生活クラブでは「疑わしいものは使用しない」という考え方から、遺伝子組み換え作物・食品は取り扱わないことを基本に、その生産にも反対しています。提携生産者と協力し食品の原材料、畜産物の飼料からも遺伝子組み換え作物^{*7}を取り除いています。同様に、ゲノム編集^{*8}された原材料も認めません。



■Non-GM飼料の使用量

37,558 t

■GM対策済消費材の割合



^{*7} 遺伝子組み換え作物(GM作物/GMO)
ある特定の性質をつくるために、微生物など他の生物の遺伝子の一部を切り取って、自身の遺伝子に組み込む操作がおこなわれた作物のことです。(GMO: genetically modified organism)

^{*8} ゲノム編集食品
特定の遺伝子を壊す「ノックアウト」と、特定の遺伝子を外部から挿入する「ノックイン」の2種類があります。



4

原発のない社会をめざし、 再生可能エネルギーの 生産と普及に取り組みます。



再生可能エネルギーによる電力をつくり、連帯と共同購入によって選択する人や事業者を増やし、原子力発電所が必要ない社会をつくります。

再生可能エネルギーによる電力の自給と共同購入を推進

生活クラブでんきの利用者と発電所を増やす

各地域の生活クラブと生活クラブ連合会が出資し、電力の供給・販売をする(株)生活クラブエナジーを設立。太陽光や風力などの再生可能エネルギーを基本とした、「生活クラブでんき」を組合員に供給しています。提携する産地や賛同する事業者と連携して新たな電源開発をすすめ、再生可能エネルギーの自給率100%をめざしています。

■「生活クラブでんき」を契約している件数(低圧)

2020年度 **16,091** 件



生活クラブ風車「夢風」(秋田県)



庄内・遊佐太陽光発電所(山形県)



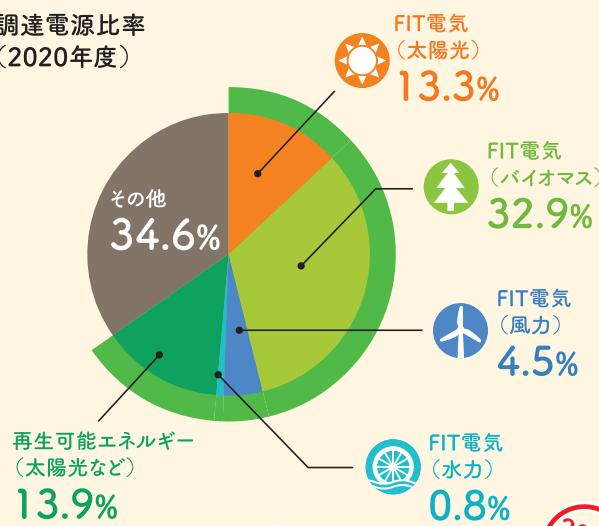
会津電力(株) 雄国太陽光発電所(福島県)



生活クラブソーラー 多摩南発電所(東京都)

2020年度の実績と2030年目標

■調達電源比率
(2020年度)



生活クラブでんきは2030年度目標として
再生可能エネルギー**100%**をめざします

2030
目標

■生活クラブでんきの再生可能エネルギー発電所



※バイオマスは、(株)生活クラブエナジーが提携する事業者から購入して供給しています。

※各発電所のアイコンは都道府県ごとに表示

※上記数値は、生活クラブ事業所および関連施設(高圧)と生活クラブ組合員(低圧)への供給実績に基づき算出しています。最新の調達電源比率は(株)生活クラブエナジーの公式サイトで確認できます。※(株)生活クラブエナジーがこの電気を調達する費用の一部は、(株)生活クラブエナジー以外の利用者を含め、電気をご利用の皆様から負担された再生可能エネルギーに関する賦課金によって賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均のCO₂排出量を持った電気として扱われます。※その他インバランス等には、旧一般電気事業者からインバランス(補給)供給を受けた電気と他社から調達している電気の一部で発電所が特定できないものについては「その他」の取扱いとされています。2019年度のCO₂排出係数(調整後排出係数)は0.395です。(単位:kg-CO₂/kWh)



5

誰もがその人らしく、 安心して生活を営める 地域と社会をつくります。



生まれてから生涯を終えるまで安心して生活を営むため、地域に必要な福祉事業および市民活動の環境整備と資源創出をすすめます。

生涯を通じて地域の中で安心して生きられる社会をつくる

■ さまざまな人を支える地域活動と事業

あらゆる世代や状況下の人たちが元気で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、居場所づくりや役割づくりをすすめています。何度も再チャレンジできる社会をめざします。



まちの縁がわ「わ・おん」(東京都)で開催された、コミュニティカフェの様子

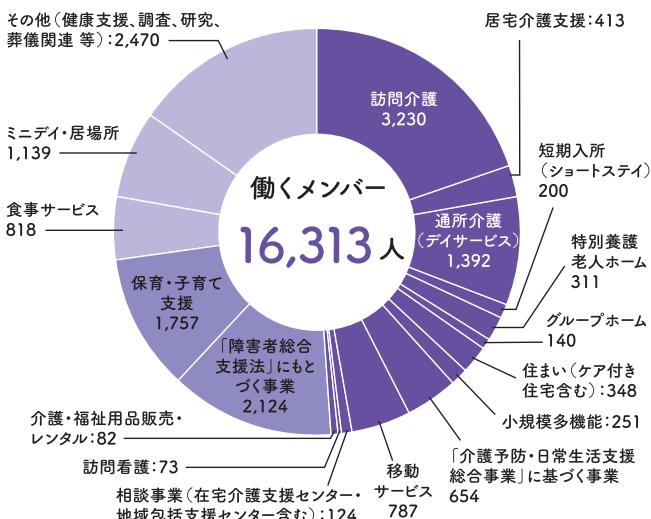
■ 介護予防への取り組みと健康長寿の活動

健康づくりの支援として、手軽な運動方法や生活習慣の改善につながる情報をWEBサイトで定期的に発信。また「美食百彩*9」消費材と連動した、ビオサポアクティブシニア講座*10の開催を支援しています。



ビオサポアクティブ
シニア講座に参加し
た組合員(生活クラ
ブ千葉・松戸セン
ター)

■ 生活クラブグループの福祉事業で働くメンバー



■ 防災減災の活動と災害時の地域のたすけあい

防災、減災に対する意識を高め、常日頃から備えられるよう、防災ワークショップを開催。また、こくみん共済coop(全労災)が主催する防災セミナーと連携した、ライフプラン講座を共同開催しています。



ライフプラン講座の
様子

※事業所が立地する自治体数(市区町村)



*9 美食百彩

大人から子どもまで、あらゆる世代の健康な毎日の食卓をサポートする消費材シリーズです。

*10 ビオサポアクティブシニア講座

生命力にあふれた健康な食生活をサポートする活動「ビオサポ」の一環で、シニアの食をテーマとする講座です。

6

貧困と孤立を見過ごさず、 自立に向けて寄り添い、支え合い、 多様な居場所と働き方をつくります。



現代社会が生み出す貧困に目を向け、広がる格差と社会的弱者を孤立させる社会構造の変革をめざして、緊密なセーフティーネットを構築します。地域の連携を強化し、誰もが役割のある、お互いがたすけあえる社会をめざします。

誰も取り残すことなく、たすけあえるしくみをつくる

■社会的に不利な状況にある方へのサービスとケア

社会的に不利な状況にある人々が、衣食住に関するサービスやケアを身近に利用できるしくみをつくっています。その一環として、最低限度の生活の維持が難しい方などに対して、相談事業を行なっています。



「認定NPO法人コミュニケーション・アート」(千葉県)での家計相談の様子

■食の再配分と食育の推進

消費材をつくる生産者が集まる「生活クラブ親生会」と連携し、生活クラブフードバンクの取組みを推進しています。食品の提供先はこども食堂、居場所運営団体など、さまざまに広がっています。



組合員がボランティアで、食材の仕分け作業に取り組んでいます(フードバンク神奈川)

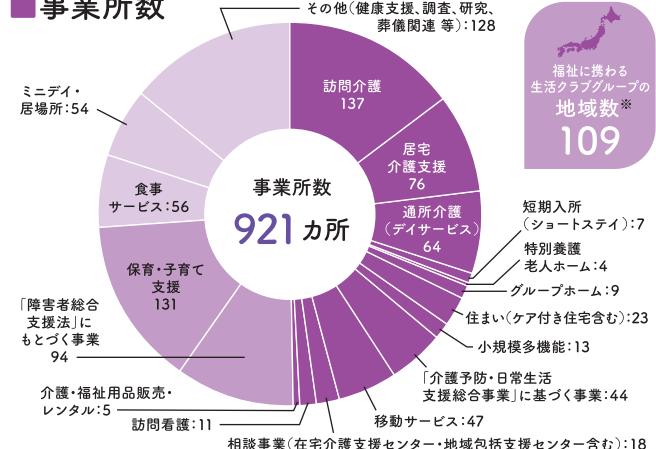
■誰もが役割のある場づくり

教育や進学に影響を及ぼす貧困の連鎖を断ち切るために、地域での学習支援や職業訓練のしくみを広げています。また、社会的養護の下で育つ子どもに対し一対一で継続的な支援をする、伴走型の支援をしています



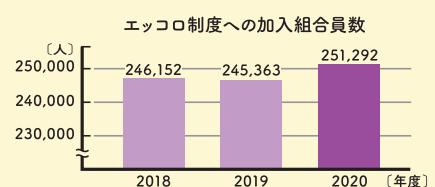
生活クラブ長野・辰野支部を中心に立ち上げたNPO法人「辰野自立支援の会あかり」の学習支援

■事業所数



組合員どうしのたすけあい「エッコロ制度」

生活クラブ独自のたすけあいの仕組みです。制度内容は各地の生活クラブによって異なりますが、組合員同士が「お互いさま」の気持ちでたすけあうという趣旨は同じです。現在、14都道府県の生活クラブで実施されています。



※事業所が立地する自治体数(市区町村)





非戦と共生の立場を貫き、 平和で公正な社会を めざします。



戦争のない世界をめざし、海外の市民との多様な交流をすすめながら、社会的・経済的な発言力を發揮します。

おおぜいの声を集めみんなが生きやすい社会に

一人ひとりの意見を国に届ける

個人の力は小さくとも、それがたくさん集まれば社会を変える力となります。新型コロナウイルス感染拡大防止対策における政策、遺伝子組み換えや食品表示等の問題、原発や核燃料サイクルの問題、再生可能エネルギーの普及など、暮らしに密接な制度やその課題について、意見発信をしています。国や自治体へ意見書やパブリック・コメントを提出したり、署名を集めて議会に陳情や請願を行なったりしています。

■2020年度に提出した意見書やパブリック・コメント

- ・「新型コロナウイルス感染拡大防止対策についての政策提案」に対して、持続化給付金の支給対象見直しと国内自給力向上を求める意見書
- ・遺伝子組み換えカラシナの生物多様性への影響を懸念し、国の監視強化を求めるパブリック・コメント
- ・「米穀に係る食品表示基準の見直し」案に対するパブリック・コメント*
- ・石けん原料(脂肪酸塩)を「化管法(PRTR法)」の第一種指定化学物質として管理する必要がないことのパブリック・コメント
- ・東京電力福島第一原発の処理済み汚染水(ALPS処理水)の放出案に対するパブリック・コメント
- ・「6ヶ所再処理工場」稼働に反対する意見書

*「米の産地・品種・産年の表示が農産物検査証明によるものか、その他の品質確認によるものかの記載は、任意表示ではなく義務表示とすべき」との意見を提出

海外の市民と交流し相互理解を深める

経済的な指標に頼らず、多様な国や民族との相互理解を深めるために、さまざまな交流の機会を持っています。



パブニアギニア産の「エリンバリコーヒー」では、厳しい基準を達成したコーヒー豆を農家から一般より高い値段で買い上げ、収益の一部を学校の建設などに活用している生産者と提携しています。生活クラブが1989年に受賞した「ライト・ライブリッド賞」の創設40年を記念し、原予力資料情報室、高木仁三郎市民科学基金との共催で、オンラインのシンポジウムを開催しました(2021年2月)

Pick Up! 2021年度の活動

気候危機をストップ!「未来へつなげる♪エネルギーアクション!」

日本のエネルギーのあり方を決める、第6次エネルギー基本計画が2021年秋に改定されました。生活クラブでは、「再エネ100%・脱原発・脱炭素」の3つの意見を基本計画に盛りこむことを求める、「未来へつなげる♪エネルギーアクション!」を、改定案が示される前の2021年3月から展開。学習会の開催や署名活動、スタンディング・ア

クション、自治体への意見提出、パブリック・コメントの提出など、おおぜいの組合員がアクションに参加しました。集まった署名の数は全部で274,830筆*。パブリック・コメントは生活クラブ連合会と各地の生活クラブ、組合員個人からも提出し、国を動かす力の一つになりました。

*「あと4年、未来を守るのは今」キャンペーンと合同



2021年6月に開催した「G7サミット直前全国アクション」の様子。27万筆を超える署名を内閣総理大臣ほか、3人の大臣あてに提出。さらに国会議事堂前のはか、全国122ヶ所でスタンディング・アクションを実行しました。

重要目標
8

情報開示と自主管理を 基本とし、自ら考え、決め、 実行します。



組合員主権に基づく組織運営を基軸として女性のエンパワーメントを強め、SDGs達成に主体的に取り組みます。SDGsを超える取組方針についても、自主的な目標を定め、実行していきます。

独自の基準による管理と点検をすすめる

生活クラブの自主基準

健康で安心して暮らせる社会をめざし、生活クラブでは「消費材10原則^{*11}」に基づく「自主基準」を設けています。その範囲は農業・漁業・畜産・加工食品・生活用品、そして全ての消費材に共通する容器包装・放射能の分野にわたります。自主基準は消費材をつくる際に守るべき規格と、未来のあるべき姿に消費材を導くためのガイドラインで構成されています。



消費材Step Up点検

組合員が消費材の生産現場におもむき、共に決めた基準にそってきちんと作られているかを点検する活動です。対面を基本としていますが、近年はオンラインも活用しています。組合員の率直な質問によって生産者は製造面の見直しや新たな発見をし、組合員は現場を視察することで消費材の優れた点や生産者のこだわりなどをより深く理解できる機会となっています。



「ふんわりチーズドッグ」をつくる株式会社ミサワ食品（製造元：株東京下町らぼ）の点検の様子（2019年）

2020年度の実績と2030年目標

■消費材の自主基準登録数
(青果物除く)

2020年度 **2,479**品目

2030
目標

2,600品目

約95%達成！

2020年度の実績と2030年目標

■消費材Step Up点検

累積実施数
1997年～2021年3月末現在

1,244件

2030
目標

1,570件

約79%達成！

放射能検査活動

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから、放射能による食品の汚染状況を全体的に把握するために検査を開始。徐々に検査装置の数を増強し、基準値をより厳しい数値に更新してきました。また、検査実績をもとにリスクが少ないと分かった品目の検査を減らし、検査すべき品目は検査頻度を増やしています。



ゲルマニウム半導体検出器



■放射能検査数

2020年度実績
8,461件

累積実施数
2011年～2021年3月末現在

132,613件

2011年～2021年3月末現在

*11 消費材10原則

経済と社会に関する5つの原則と、環境に関する3つの原則、そして共生と自治に関する2つの原則で構成されています。消費材や取組みの一つひとつに反映され、「健康で安心な社会」の実現の基礎となっています。



重要目標8は、組合員活動についてまとめた、SDGsに留まらない生活クラブ独自の目標です。

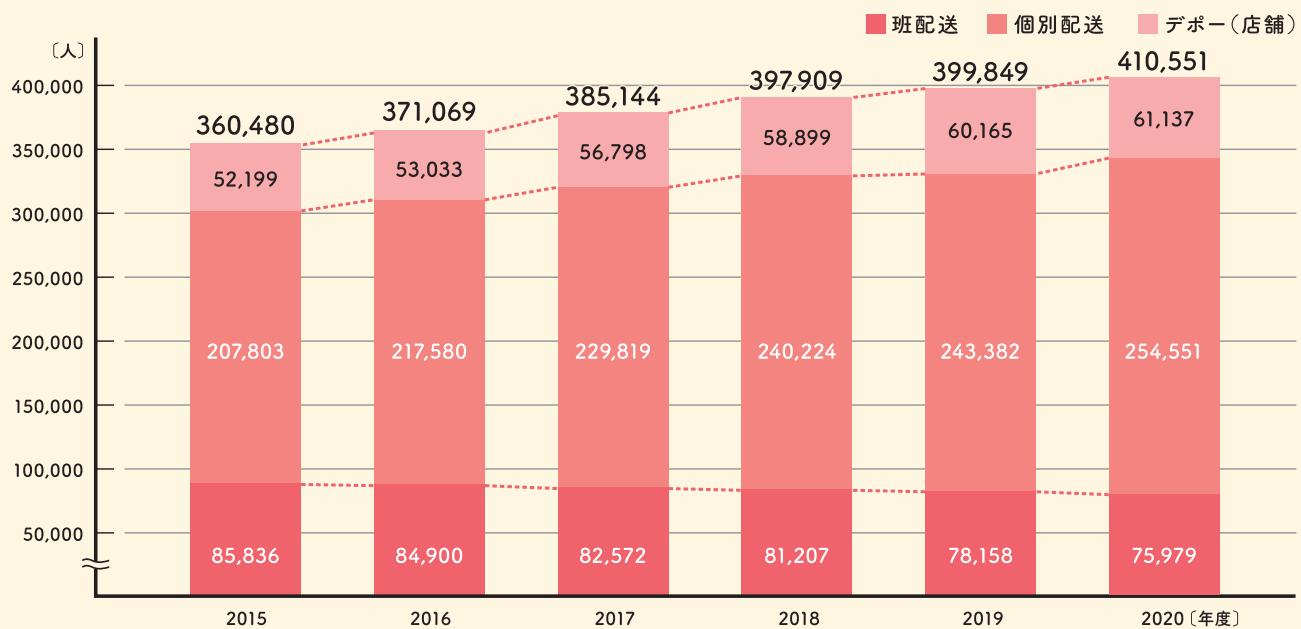
DATA 数字で見る動向と推移

生活クラブグループの全体像が見えるデータをまとめました。

2020年度の共同購入の利用者数・事業高・出資金の推移と、福祉事業の事業高、共済制度の加入者数推移を掲載しています。

[DATA 1 数字で見る共同購入事業の動向と推移]

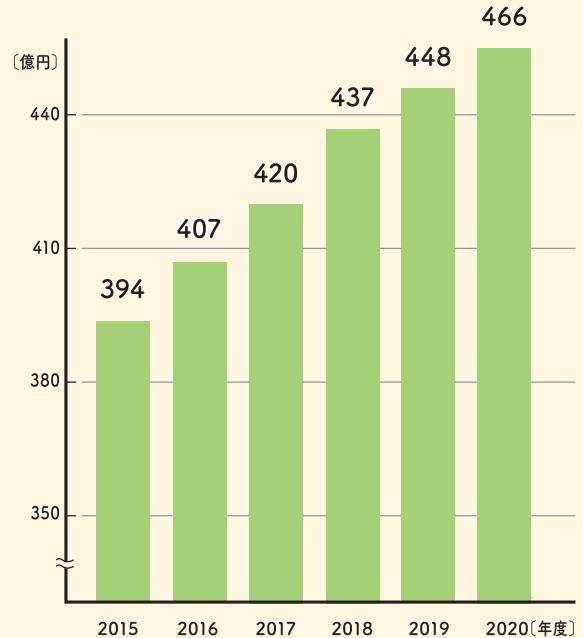
■組合員数(業態別)※



■供給高(業態別)※



■出資金推移



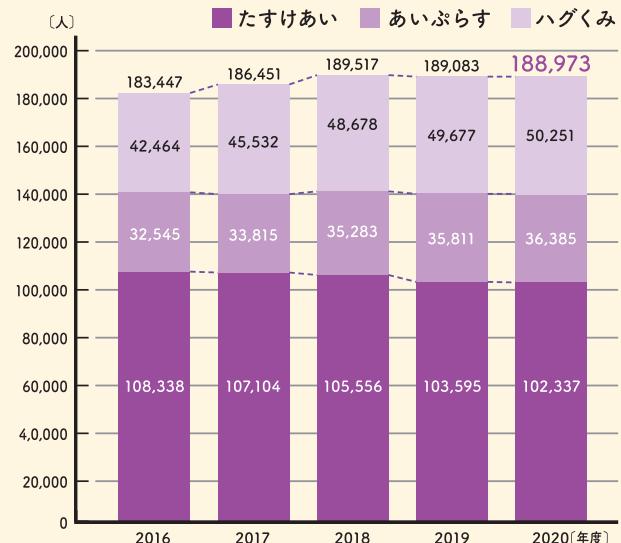
※各年度の合計値には、班配送・個別配送・デポー(店舗)以外の組合員数、供給高も含まれています。

[DATA 2 2020年度生活クラブグループの福祉事業と共済制度のひろがり]

■生活クラブグループ福祉事業の推移



■共済制度への加入者数



生活クラブのしくみについて

生活クラブは生協です。営利を第一の目的とする一般の企業とは異なり、組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。

みんなで「出資」

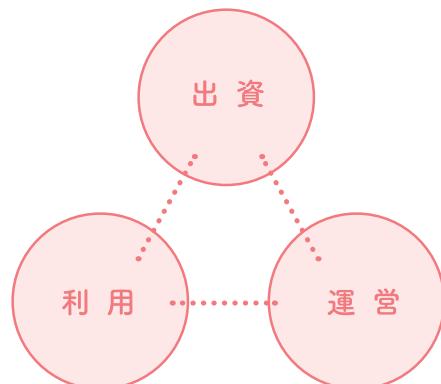
組合員は、自分たちの事業や活動を行うため、お金(出資金)を出し合います。生協の事業はこの出資金により運営されています。なお、生協を脱退される際には、出資金は全額返還されます。

みんなで「利用」

組合員は品物を買ったり、さまざまなサービスを受けたりします。

みんなで「運営」

「こんなものがあつたらいい」など、取扱う品物やサービス、活動について、組合員がさまざまな意見を出し合い、運営します。



生活クラブグループ

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会【33単協 1連合会】

生活クラブ生活協同組合(東京)／23区南生活クラブ生活協同組合／北東京生活クラブ生活協同組合／多摩きた生活クラブ生活協同組合／多摩南生活クラブ生活協同組合／生活クラブ生活協同組合(神奈川)／横浜みなみ生活クラブ生活協同組合／横浜北生活クラブ生活協同組合／かわさき生活クラブ生活協同組合／湘南生活クラブ生活協同組合／さがみ生活クラブ生活協同組合／福祉クラブ生活協同組合(神奈川)／生活クラブ生活協同組合(埼玉)／生活クラブ生活協同組合(千葉)／生活クラブ生活協同組合(長野)／生活クラブ生活協同組合(北海道)／生活クラブ生活協同組合(茨城)／生活クラブ生活協同組合(山梨)／生活クラブ生活協同組合(岩手)／生活クラブ生活協同組合(静岡)／生活クラブ生活協同組合(愛知)／生活クラブ生活協同組合(栃木)／生活クラブ生活協同組合(青森)／生活クラブやまと生活協同組合／生活クラブ生活協同組合(群馬)／生活クラブふくしま生活協同組合／生活クラブ生活協同組合大阪／生活協同組合生活クラブ京都エル・コーブ／生活クラブ生活協同組合(奈良)／生活クラブ生活協同組合(滋賀)／生活協同組合エスコープ大阪／生活クラブ生活協同組合都市生活／生活協同組合庄内親生会(山形)／生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会

関連会社

株式会社太陽ネットワーク物流／新生酪農株式会社／株式会社生活クラブ総合サービス／生活クラブ・スピリッツ株式会社／株式会社生活クラブたまご／株式会社生活クラブエナジー

SDGsでめざす世界のさらにその先へ

生活クラブ連合会は2020年度総会で、これまでの取組みをSDGsの17の重要目標に沿って検証し、さらに推進すべき8項目を「第一次生活クラブ2030行動宣言」としてまとめました。この作業を通して生活クラブのさまざまな取組みが、持続可能な地球環境と人間社会をつくることにつながっていることを確認することができました。同時に、これを組合員と生産者を主体とする民主的な経済活動によって実践してきたことはSDGsに留まらない実績であると思います。さらに、その後の2年間をかけて新たな課題を洗い出し目標化したものが、「第二次生活クラブ2030行動宣言」です。



撮影:永野佳世

伊藤 由理子

生活クラブ事業連合
生活協同組合連合会 会長

より困難な課題の解決へチャレンジしていきます

できることはすべて実践してきた私たちにとって、残された課題はより困難なものです。そこで、この検討には生活クラブ生産者の自主組織である生活クラブ親生会にも議論に参加していただきました。「より困難な課題」とは、生産者の規模と見合わない原料調達や設備投資、多世代化している組合員の生活の利便性や価格、生産地の地域経済に影響が及ぶ内容などです。しかし、忌憚のない議論を通して、生活クラブならではの解決策として、一部では組合員が生産現場に参加するチャレンジも含めて目標化することができました。また、消費材以外においても私たちが初めて目標化する分野も含んでいます。これらの内容を、2022年度から始まる第7次連合事業中期計画にも明確に位置付け、丁寧に具体的に事業と活動を進めていきます。その一つとして、目標の達成度を毎年検証し公表するために本冊子を作成します。生活クラブ関係者に留まらない評価や期待を受け止め、変化を恐れずに進んでいきたいと考えています。

■行動年表

1965 (年度) 1977	「生活クラブ」結成 合成洗剤の取り扱いをやめ、せっけん利用運動を本格化
1986	Chernobyl原発事故を受け、放射能の自主基準を設定
1990	生活クラブ連合会設立総会。協同組合運動が食の自給力向上・持続可能な循環型社会づくりのモデルとなるよう実践すると定める
1994	びんを再使用する「グリーンシステム」スタート
1997	「自管理監査制度」スタート。 「安全・健康・環境」生活クラブ原則を制定。次世代を見据え、生産から廃棄に至るすべての過程で責任をもつとする
2015	生活宣言(ブランド・ステートメント)と10のThink&Act決定
2016	2014年に設立した(株)生活クラブエナジーを通じて再生可能エネルギーによる電気の共同購入スタート。 「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を決定
2018	「生活クラブの消費材10原則」を決定。自管理監査制度を「持続可能な生産と消費」推進制度へリニューアル
2020	「生活クラブ2030行動宣言」を決議 「気候危機宣言」を発表
2022	「第二次生活クラブ2030行動宣言」決議

■2030行動宣言のロードマップ

2020

2022

2030

第一次行動宣言

第二次行動宣言

未来のあるべき姿をもとに 目標を決定しています

「2030行動宣言」は2030年までに「こうありたい」という姿をもとに、いま何をすべきかを考えるバックキャスティングで目標を設定。達成に必要なアクションを実行しています。

生活クラブ2030行動宣言は 2022年6月、次のステージへ

これまでのSDGsに留まらない実践に加え、2022年6月に「第二次生活クラブ2030行動宣言」として、さらなる目標を掲げます。生活クラブの新たなチャレンジにご注目ください。

.....<策定中の目標の一部をご紹介します>.....

気候危機対策

気候が変化していく中でも持続的な生産と消費を守るため、気候危機に適応する品種や技術の調査をすすめていきます

食品ロスの削減

生活クラブの予約共同購入のしくみをいかし、生産・流通・消費の各過程でさらなる食品ロスの削減をめざします。

脱プラ推進

石油由来プラスチックの使用を削減し、使わざるを得ない場合は再生プラスチックや植物由来プラスチックを基本とします。

多様な働き方

年齢や性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが働きやすく公平で多様な職場づくりをすすめています。

私たち生活クラブは、関わるすべての人々とともに、これらの宣言を実行していくことを約束します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは？

世界では、格差と貧困、人口増加、生態系を維持できないほどの大量生産と消費、気候危機など、さまざまな問題が立ちはだかっています。SDGs（エス・ディー・ジーズ）は、これらの問題を2030年までに解決することをめざした、世界共通の目標です。先進国も途上国も区別なく、「誰一人取り残さない」という理念のもと、一人ひとりが自分ごととして捉え、行動することが求められています。



